

## 手指の爪の形状に関する研究

植竹 桃子（東京家政学院短大）

**目的** 日常生活や被服造形の実習授業等で、長く伸ばした爪をもどかしげに使っている場面にしばしば遭遇する。長い爪は、手先を使う作業の能率に影響することが推察される。一方、爪を伸ばすという行為は、身体を装飾するというヒト独特の行為のひとつだといえよう。したがって、爪を伸ばすことに関しては、一側面からのみではなく多くの視点からの検討が必要だと考える。今回はその導入として、身体装飾と実用的機能の両側面から爪を伸ばすことについての概要をつかみ、今後の指針をたてる。

**方法** A. 短大生活科学科に所属する女子学生 145名（平均年齢 19.02歳）を対象とした質問紙調査：①爪の装飾のしかたの実態，②爪を伸ばすこと，爪にマニキュアをつけることに対する主観的評価，B. 爪を長く伸ばした被験者，伸ばしていない被験者，初めて伸ばした被験者各1名を対象として、日常生活で行われる手指の動作（29動作）を行う様子を観察、およびそれら各動作への爪の長さの影響を自己判定させる。

**結果** ①爪をよく伸ばす者は約2割、爪の装飾であるマニキュアをよくつける者は約3割いる。②自分が爪を伸ばしている場合は他人が伸ばしているのを見て好感をもつが、自分が伸ばしていない場合は好感度が低い（ $r=0.30$ ）。しかし、マニキュアをつけることについては、このような関連性はみられない。③29動作のうち、指先を直接使うつまむ動作，手指を手のひらの中に握りこむ必要のある動作（鉛筆で字を書く等），軟らかい物を扱う動作では特に、長く伸ばした爪による不都合が生じる。しかし、長い爪に慣れることで不都合が解消される動作もある。